

取り組んでいること

- ・ヒシの刈取り
- ・ごみ拾い
- ・ナノバブルを利用した水質改善
- ・ワカサギ釣りを楽しむ
- ・浚渫工事
- ・湖辺面の利活用に向けた準備（諏訪湖のオープン化）
- ・諏訪湖読本
- ・諏訪湖創生ビジョン周知
- ・ワカサギ等資源の状況調査
- ・諏訪湖環境整備
- ・水草除去工事
- ・諏訪湖アダプトプログラムの参加
- ・水質リアルタイムモニタリング（HP公開）
- ・諏訪湖の資源を生かしたデバイス開発
- ・キッチンカー等での販売許可
- ・“スイッチ”実施
- ・水質検査
- ・諏訪湖環境研究センター設置
- ・プラスチックごみの調査研究
- ・ローイング競技大会の運営
- ・水質、生態系の調査研究
- ・覆砂等（浄化事業）
- ・湖周ウォーキング
- ・治山事業（水源の涵養、土砂流出防止）
- ・河川の適正な利用を審査・許可
- ・諏訪湖アダプトプログラムを推進
- ・諏訪湖畔のジョギングロードの利活用
- ・諏訪湖畔に所在するスポーツ施設の管理
- ・御神渡り観察に参加
- ・水深が年間2cm浅くなっていることに気になっている。浚渫やってほしい
- ・ヒシ除去作業イベント
- ・浮遊ゴミ除去作業イベント
- ・アレチウリ、オオハンゴンソウ除去
- ・市町村のまちづくり支援
- ・諏訪市内の小河川の整備と水路復活活動
- ・諏訪湖読本作成
- ・ヒシの堆肥化、肥料の流入減、栄養の還元
- ・諏訪湖に係る調査研究の調整
- ・豊かな生態系の復活（水環境保全）
- ・諏訪湖のPRのため琵琶湖周航の歌のメロディーにのせて作詞したものを伝える
- ・国際的な湖沼の研究 標高1000mの湖20万都市 視察ビジネス
- ・諏訪湖の花火を見に行く
- ・水草の刈取り試験
- ・ヒシ、沈水植物を入れた諏訪湖モデルの構築
- ・浚渫予定地の調査
- ・ワカサギの増殖
- ・鯉の有効利用
- ・エビ漁の時期の変更
- ・ゴミ調査
- ・環境学習
- ・先進地等との交流
- ・諏訪湖におけるボート競技普及
- ・にぎわい創出のため観光ガイド（自転車）
- ・諏訪湖内の底質環境の実態調査
- ・流域環境修復実学の実践
- ・水草処理、利用（農地・山地利用）
- ・砥川を愛する会による草刈り作業
- ・サイクリングロード整備

テーマ 「諏訪湖創生ビジョン実現に向けて今（これから）できること」

課題に感じていること (取組に対する課題やそれ以外の新たな課題)

- ・浚渫の効果検証。松本城の堀の浚渫 を参考にしてほしい
- ・ヒシの刈取りに参加して思ったより楽しかったが、より多くの方に参加してもらうにはどのように伝えるべきか
- ・ヒシ刈りをどのようにエリアを決めて水平展開していくか
- ・ヒシ刈りは子供が参加できるような環境を創出することが必要
- ・ボランティアを充実させて子供の教育を進めたい
- ・貧酸素及びヘドロ
- ・藻刈の時期
- ・浚渫後の土砂の処理
- ・ヒシ刈り後の展望の意識
- ・キッチンカー等の設置可能場所
- ・湖を使用する際の手続の煩雑さ
- ・データ活用を増やしたい
- ・取組が伝えきれていない
- ・箇所をゾーニングし取組を一点化するべき
- ・温暖化の影響で御神渡りできない
- ・夏場に湖が緑色になる。景観上課題
- ・諏訪湖がうまる
- ・ヒシ繁茂景観悪化
- ・植林は人が大事（人による維持管理）
- ・ごみ拾いしたゴミの処分主体の調整
- ・諏訪湖アダプトプログラムメンバーの高齢化、若い人の巻き込み
- ・河川のオープン化の進捗
- ・湖周自治体の連携、具体的にどのような方向性にするか
- ・諏訪湖にどのくらいお金をかけるかであり方は変わってくる
- ・水路の活用、陸地との接点
- ・身近な自然との接点が少ない
- ・水との分断、水路と生活のボーダーをなくす
- ・行政組織間のボーダーも
- ・水草の増加によりゴミがたまる
- ・河口浚渫
- ・子どもたちが諏訪湖に触れ合う機会がすくない
- ・ごみが多い
- ・非特定汚染源が大水により流れ込む
- ・夏の緑色の湖面
- ・ごみ問題、環境学習
- ・上川採卵時、上流からゴミが多い
- ・海外の観光客はゴミ箱がなくて困る
- ・拠点としてのゴミ箱有効
- ・流域、岳麓のゴミについて取組仲間を増やす必要がある。巻き込み方。
- ・花火大会のゴミは地域全体で取り組む必要がある
- ・マイクロプラスチック漁業への影響
- ・花火玉はプラゴミも含んでいる（生分解性プラを使用してもらいたい）
- ・花火は夏、ライターは通年してゴミとしてある
- ・大水でゴミが一気に増える
- ・環境については発信の仕方興味を持つ人、嫌いになる人がいる
- ・SDGs、ゼロカーボン若い人は敬遠しがち。重く受け止めがち
- ・湖沼は地域資源。利用のあり方を考える
- ・きれいにする理由を子供たちの環境教育にとりいれる
- ・湖沼環境保全に関する自治体連携の推進
- ・下水高度処理水の中腐水性段階から
- ・砥川は土砂流入が多い
- ・砥川はキレイだが危ない
- ・砥川を愛する会の会員の高齢化
- ・技術者不足
- ・持続可能な組織づくり
- ・ワカサギの大量死の要因不明（アンモニア、シロコ）
- ・どこまで水質をよくすればよいか
- ・湧水がすくなくなってきた

取り組んでみたいこと

（構成員と一緒に取組みたいこと、またそれに対し自分ができること）

- ・イベントは早めに展開したい
- ・誘致活動のためのパンフレット
- ・観光客誘致の目玉作成
- ・諏訪湖のさらなる観光地化
- ・包括的な手続き方法の策定
- ・情報共有の場を設けていく
- ・横のつながりを強化
- ・カヤックに乗る（視点を低く）
- ・浚渫土をどこにもっていくか
- ・ヒシ除去に参加（刈った量が全体の何%か、見える化）
- ・ヒシ除去は目標を具体化（510 t の倍増で課題解決するか）
- ・私生活で何をすべきか明確に
- ・河川のオープン化
- ・水面に近いところからまちづくり
- ・子供たちが遊べる環境整備
- ・諏訪湖創生ビジョン推進会議への企業の参加増
- ・地域が諏訪湖に何を望んでいるかを吸い上げる必要がある
- ・諏訪湖の観光面でのPR
- ・風や水で流れこむゴミを広く公表する必要がある
- ・ヒシ堆肥を流域の多くの人に使ってもらう
- ・ヒシの堆肥も含めゴミ拾いに多く参加して意識啓発していく
- ・めざす諏訪湖の姿が人によって違う。推進会議で議論が必要
- ・地域の望む諏訪湖にするために環境研究センターが必要なデータを提供
- ・キーワードは「若者」
- ・子どもの頃に受けた影響は大きい
- ・体験から身につく
- ・縦のつながり大事
- ・地産地消 諏訪湖の魚介を給食に
- ・諏訪湖の良さを発信
(サイクリング遠足+カヤックガイド+環境学習)
- ・家族で回れる参加できる楽しいイベント開催
- ・諏訪湖自慢
- ・内から外を見る
- ・湧水の復旧、雨水の地下浸透＝土
- ・竹炭を活用してほしい
- ・水清ければ魚多し？
- ・土づくりは話し合うことが重要
- ・下水処理など今まで話されてこなかったことも周知